

# 身体的拘束最小化への取り組みについて

医療法人 松城会 隼人温泉病院

## 取り組みの背景と意義



身体的拘束（Medical Restraint）とは、患者さま自身への不利益となる自傷行為の防止や他害行為を防ぐために行われる行動制限を指します。治療上の安全性を確保するための「緊急やむを得ない場合」における実施は否定されるものではありません。

しかしながら、不必要な身体的拘束は身体機能の低下・褥瘡の発生・食欲低下・心肺機能低下・感染症への抵抗力低下をもたらすことが知られています。

当院では特に高齢患者さま・認知症患者さまの入院が多く、この問題に組織全体で向き合う必要があります。

### ⚠️ 不必要な拘束がもたらす主な弊害



身体機能の  
低下



圧迫部位の  
褥瘡発生



食欲・  
心肺機能の低下



感染症への  
抵抗力低下



精神的  
ストレスの増大



## 「身体的拘束ゼロ」を目指して

病院全体で取り組む身体的拘束最小化推進体制を発足

院長

岩城 政秋  
院長

当院は病院長指示のもと、原則として身体抑制を行わない方針とし、身体的拘束を最小化するためのチームを発足させました。

高齢患者さまや認知症患者さまが多く入院している当院では、安全確保のためにやむを得ない状況も生じ得ますが、職員一同が「身体的拘束ゼロ」という目標に向かって邁進してまいります。

患者さまの尊厳を守ることが、医療の根幹であると確信しております。

隼人温泉病院 院長 岩城 政秋

看護  
部長

看護部長  
看護部長

身体拘束の最小化は、患者さまの権利を守り、より良いケアを提供するための重要な取り組みです。

看護部として、職員が安心して身体拘束の最小化に取り組めるよう、教育・研修体制の整備とチームとしての支援体制を強化してまいります。

一人ひとりの患者さまに寄り添うケアを実現するため、スタッフ全員と共に歩んでまいります。

隼人温泉病院 看護部長



私たちは、患者さまの尊厳と安全を守り、安心して療養していただける環境づくりに取り組んでまいります。